

人流データによる備後圏域の都市構造の分析結果について

1 要旨・目的

備後圏域都市計画マスタープラン（令和3年3月策定，以下，区域マスという）に位置付けた将来都市構造の実現に向け，今後の都市計画における基礎的資料とするため，人流データにより都市構造の現状や将来推計などの定量的な評価を行った。

2 現状・背景

モータリゼーションの進展や郊外の大規模商業施設の立地などにより，中心市街地の低未利用地の発生やにぎわいの低下などが進み，さらなる人口流出などが懸念されている。そのため，区域マスで福山駅周辺を中核拠点，三原市・尾道市・府中市の各中心部を広域拠点と位置づけ，集約型都市構造の実現に向けた施策に取り組むこととしており，近年まちづくりの分野で活用が進む人流データ（携帯電話の位置情報による滞在人口）を用いて，備後圏域の都市構造の現状や滞在人口の将来推計などを実施した。

3 概要

(1) 調査対象

備後圏域（三原市，尾道市，福山市，府中市，世羅町，神石高原町）

(2) 調査時期

令和元年10月※を現状として10年後，30年後の将来推計などを分析

※ 新型コロナウイルス感染症が確認される以前

(3) 調査方法

特定の時間における滞在人口により地図上の500mメッシュを塗り分け，市街地の広がりや各拠点の滞在人口の特性等を把握するとともに，滞在人口の将来推計を行った。

また，福山市と同じ中核都市で，人口や市街化区域面積など都市規模や状況が類似する姫路市の姫路駅周辺について，中核拠点の福山駅周辺の特性を比較分析した。

(4) 調査結果【カッコ内は別紙1のページを示す】

- ア 市街化区域外側に滞在人口が広がっており，市街化調整区域の土地利用抑制が必要（P.2）
- イ 各拠点での滞在人口の居住地や人口減少の推計から，拠点の規模や特性に応じた都市機能の集積などによる，さらなる拠点性向上が必要（P.3）
- ウ 中核拠点である福山駅周辺は，その周辺への都市機能の立地等に伴う拠点の広がりがみられ，姫路市との比較において，若い方の滞在人口が少ないなどの特性を踏まえ，都市機能の誘導やにぎわい創出などによる，さらなる拠点性の向上が必要（P.4）

(5) 今後の対応

各都市の立地適正化計画等の見直しや都市計画の検討・協議などに際して，県・市町で分析結果を活用するとともに，備後圏域のまちづくりに関わる関係者が広く利用できるよう，県ホームページで公表する。

4 その他（関連情報等）

HPアドレス

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/105/bingoken-toshikouzou.html>